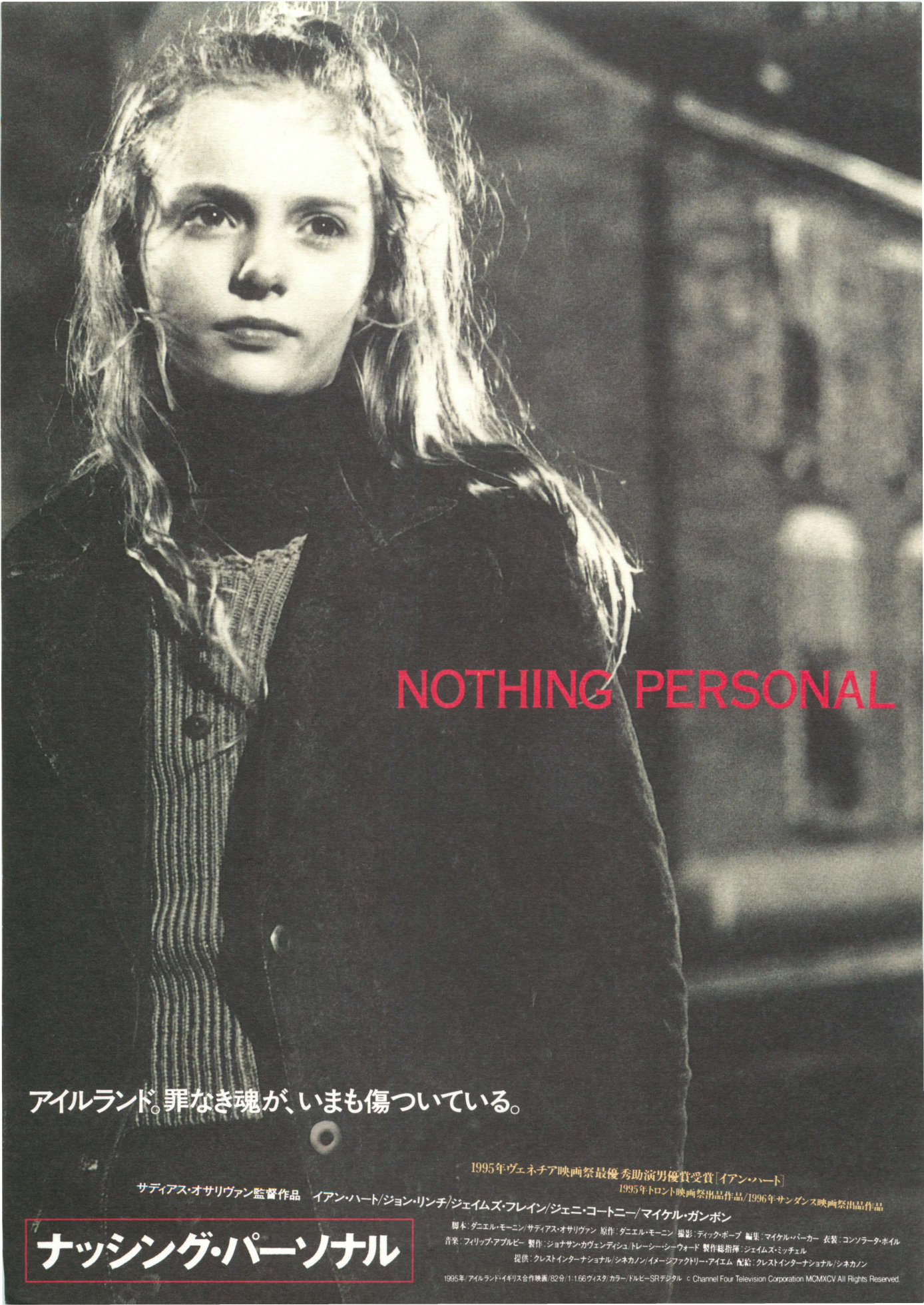




NOTHING PERSONAL

アイルランド。罪なき魂が、いまも傷ついている。

サディアス・オサリヴァン監督作品 イアン・ハート/ジョン・リンチ/ジェイムズ・フレイン/ジェニ・コートニー/マイケル・ガンボン
1995年ヴェネチア映画祭最優秀助演男優賞受賞「イアン・ハート」
1995年トロント映画祭出品作品/1996年サンダンス映画祭出品作品

ナッシング・パーソナル

脚本: ダニエル・モーニン/サディアス・オサリヴァン 原作: ダニエル・モーニン 撮影: ティック・ボープ 編集: マイケル・バーカー 衣装: コンソラータ・ホイ
音楽: フィリップ・アブルビー 製作: ジョナサン・カヴェンディッシュ/ドレーシー・シーワード 製作総指揮: ジェイムズ・ミッチェル
提供: クレストインターナショナル/シネカノン/イメージファクトリー・アイエム 配給: クレストインターナショナル/シネカノン

1995年/アイルランド・イギリス合作映画/82分/1:1.66ワイド カラー/ドルビーSRデジタル © Channel Four Television Corporation MCMXCV All Rights Reserved.

NOTHING PERSONAL

U2、シンニード・オコナー シンプル・マインズが歌った悲劇を、 アイルランドの内なる眼で描いた衝撃作。

かすかな希望を見つめる
祈りにも似た歌のように

中川五郎（音楽評論家）

『ナッシング・パーソナル』を見て、ぼくが真っ先に思い浮かべたのはシンプル・マインズの『ベルファスト・チャイルド』という歌だった。リード・シンガーのジム・カーが悲しみに深く沈みながらも何とかして未来に希望を見つけたそうと、祈りにも似た悲痛なヴォーカルを聞かせる歌だ。その曲で彼は次のように歌っている。

この緑の島じゅうで戦争が吹き荒れていて
通りには人影もない みんな帰っておいで
いつかまたぼくらはこの街に帰って来よう
ベルファストの子供が歌を取り戻す時

北アイルランドの“紛争”をテーマにした歌は、シンプル・マインズに限らず、U2をはじめ数多くのアイルランドやイギリスのアーティストに歌われていて、誰もが深い悲しみを訴え、どうしてここまでいびきあわなければならないのかと、やるせない疑問をぶつけている。「同じひとつの国」に住む人々が、どうしてここまで激しく憎しみをぶつけ合い、自分たちが生まれた街まで破壊し尽くしてしまって、深い悲しみを抱え込まなければならないのだろうか。この映画を見れば、その答えが、それもあらゆる“戦争”に対する普遍的な答えが、より明快に浮かび上がってくるように思う。「ナッシング・パーソナル」は、声高になることなく、それも雄弁に、どうすれば人々が憎しみ合い殺し合うことなく、平和に生きていけるようになるのか、その答をばくに教えてくれる。

■音楽、文学、妖精伝説、パブ文化などを中心に、今熱い注目を集めるケルトの島、アイルランド。しかし、そこにある影の部分も忘れることは出来ない。それは、U2、シンニード・オコナーをはじめ多くのミュージシャンが歌いつづけてきた民族の悲劇、北アイルランド紛争。『ナッシング・パーソナル』は、その悲劇を、人間の心の奥を見つめるまなざしで描ききった衝撃的作品である。

■監督はサディアス・オサリヴァン。力強いシャープな描写と撮影監督出身らしい映像美で、ニール・ジョーダン、ジム・シェリダンにつづく国際的なアイルランド人監督として、ハリウッドも注目する期待の俊英だ。無為な争いが罪のない人々を巻き込んでいくベルファストの一夜。その夜の終わりを映す雨に濡れた街路は切ないまでに美しい。

■スタッフ、キャストにはイギリス、アイルランドの俊英が顔を揃えた。ことに『大地と自由』が記憶に新しいイアン・ハートは、この作品で95年ヴェネツィア映画祭最優秀助演男優賞を受賞。彼のキャリアの中でも最高のスリリングな演技を見せている。物語の中で、象徴的な存在となる少女キャスリーンには『フィオナの海』のジュニ・コートニーが扮している。

■世界中が紛争終結に希望を抱いていた95年秋、この作品はヴェネツィア映画祭で上映され、会場を深い感動につつんだ。しかし翌年2月、和平への道は打ち砕かれ、その影響から、イギリスでは急速一般公開が中止された問題作でもある。

観る者の目と心をわしづかみにし、力づくで立ち上がってくる衝撃的作品。——高村 薫（作家）

ナッシング・パーソナル

精緻な手法と揺るぎない描写の傑作。その緊迫感は一級に値する。——ヴァラエティ紙

この街路に幾つもの悲しみがある



【虚しさ】 ケニー

闘争グループのリーダー的な存在。「大義を信じて戦いを続けてきた。しかしある日疑問を感じはじめる。見せかけの争いにすべてを捧げてしまったのではないかと」

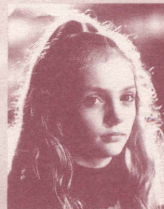
（談/ジェイムズ・フレイン）



【狂気】 ジンジャー

盲目的に闘争の大義を信じ、暴力に取り憑かれている。「自分が信じたものにあまりにも率直すぎた。敵をたくさん殺せば、連中は出ていく。単純な論理だ」

（談/イアン・ハート）



【無垢】 キャスリーン

紛争に巻き込まれ帰らぬ父を心配して敵対する地区に足を踏み入れる。「暴力がどこから生まれてくるかに関係なく、本当に傷つくのは罪のない人々なのです」（談/サディアス・オサリヴァン）

'97年お正月第二弾 衝撃と感動のロードショー!!

特別鑑賞券1500円絶賛発売中

当日一般1800円・学生1500円・小人1000円

劇場窓口および都内各プレイガイド、チケットゼン、チケットぴあにてお求め下さい。

Ciné la sept
シネ・ラ・セプ

JR有楽町駅中央口銀座側 03(3212)3761



●自由席・各回定員入替制